

3.4.6 2005年夏季(7~8月)分析結果

結果は、以下の表及び図としてまとめた。なお、値はすべてヒ素換算値とした。

表 3.4.8 2005年夏季(7~8月)地下水分析結果一覧表

図 3.4.13 2005年夏季(7~8月)ABトラック地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.14 2005年夏季(7~8月)A井戸周辺地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.15 2005年夏季(7~8月)B地区地下水 DPAA 汚染状況図

1) A井戸周辺

春季に比べ全体に濃度は低下傾向にあるが、依然として、A井戸の南東地域(No.72)と南西地域(No.39、No.79)で高濃度の汚染が認められる。

この減少がA井戸南東90m地点で発見されたコンクリート様の塊の除去及びA井戸近傍で実施した揚水試験の効果と言えるかどうかは、引き続きモニタリングを継続した上で判断すべきと考えられる。A井戸の南西地域は、特に浅部において濃度低下が認められる。

また、グランド北西角(No.27、No.155)においても、本年春季より濃度が低下している。

2) B地区

春季に引き続き、B地区中心の深部を主体に数百 $\mu\text{g-As/L}$ の汚染が認められ、周辺に向かって薄くなる傾向がある。また、B地区北側地域の深部(No.172、No.171、No.62、No.196)で非常に低濃度ながら汚染が確認された。

3) AB間

春季に引き続き、いくつかの地点で、非常に薄い汚染が確認されているほか、AB間中央部よりやや東側の井戸(No.56)の深部では本年春季より濃度が増加している。

4) ABトラック外周

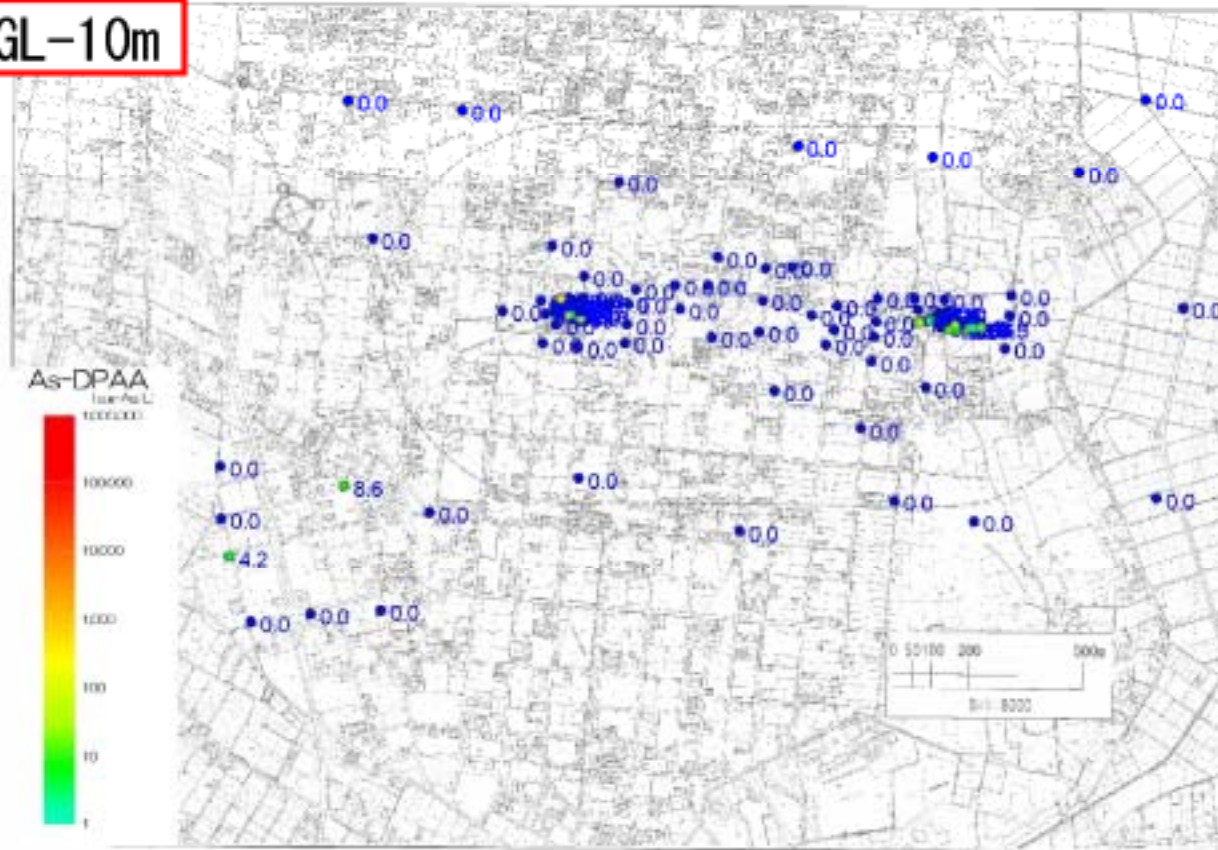
春季のモニタリング結果により、モニタリング孔のうちABトラック南西端に設置したM-3孔においてジフェニルアルシン酸(DPAA)が検出されたことを受けて、同孔の更に外縁部に新たに6本のモニタリング孔(M18~M23)を設置した。

本夏季測定の結果、M-3孔とともに同孔の南西地域に設置したM-20孔からもジフェニルアルシン酸(DPAA)を検出した。これを受けて、M-20孔から概ね200~300m圏内の全ての飲用井戸の検査を行ったところ、6箇所の飲用井戸よりジフェニルアルシン酸(DPAA)が検出された。

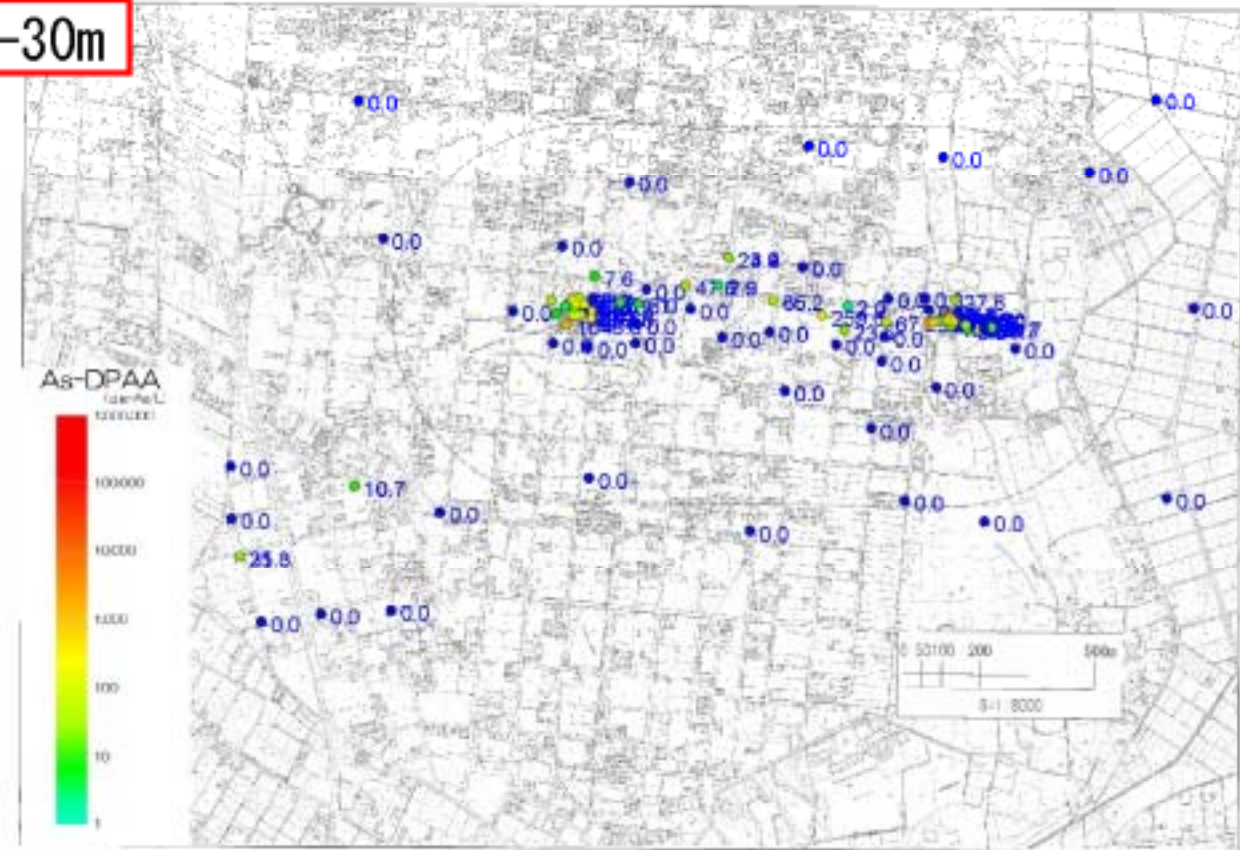
図3.4.13 2005年夏季(7~8月)ABトラック地下水DPAA汚染状況図

単位: $\mu\text{g-As/L}$

GL-10m



GL-30m



GL-20m

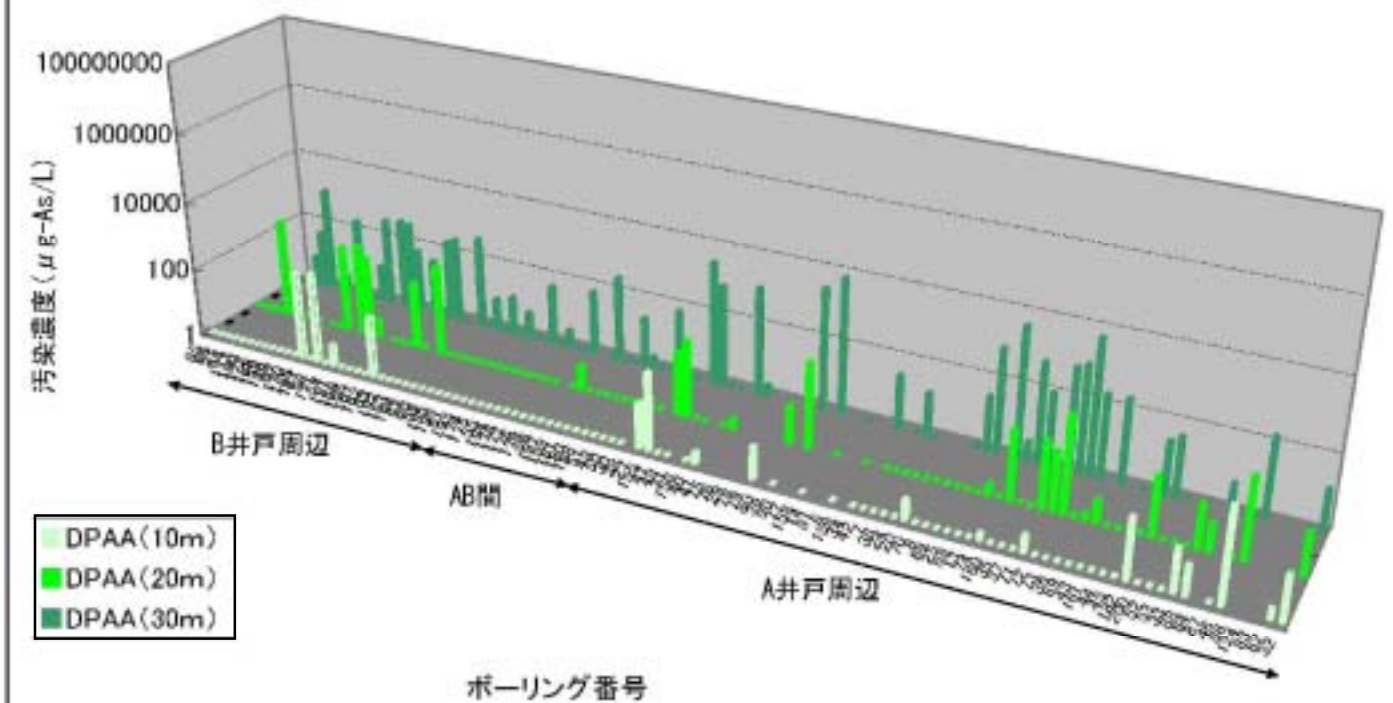
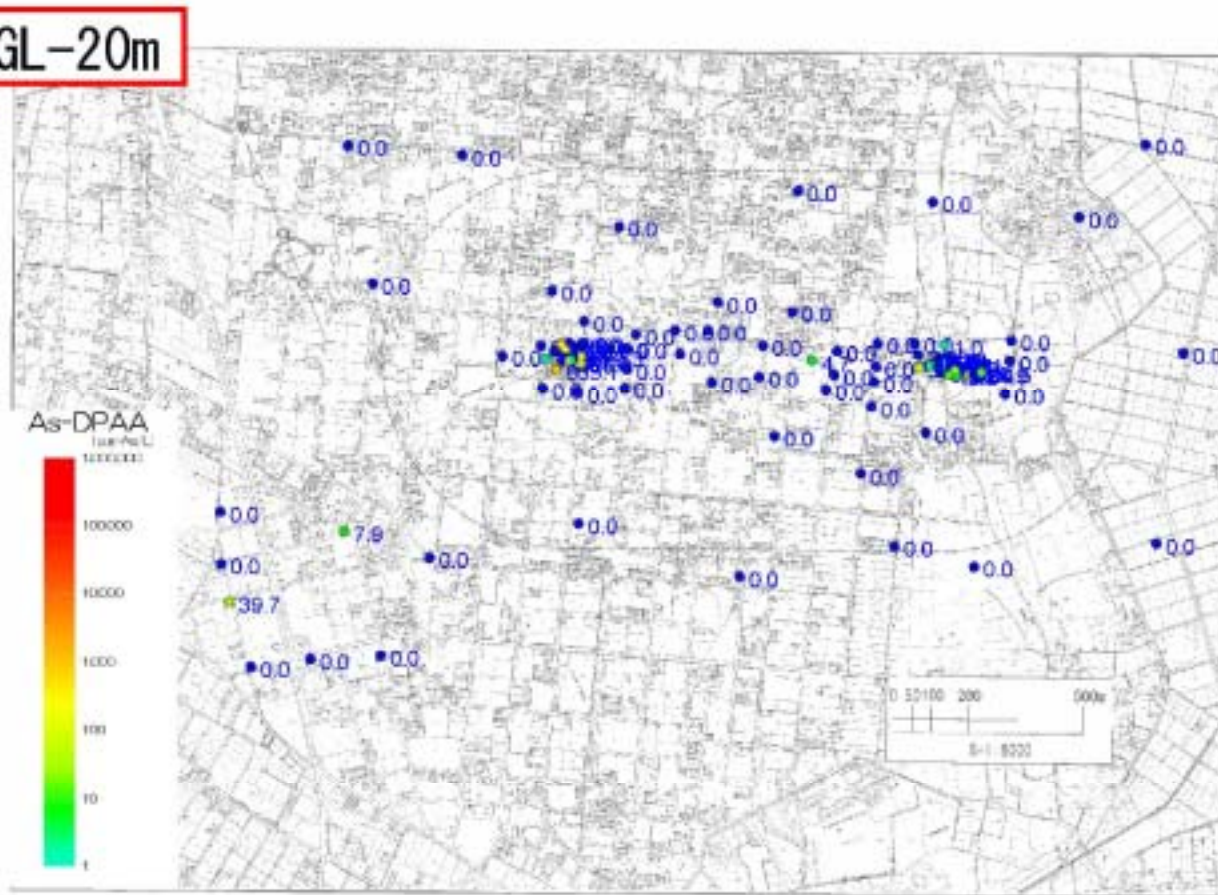


図3.4.14 2005年夏季(7~8月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位: $\mu\text{g-As/L}$

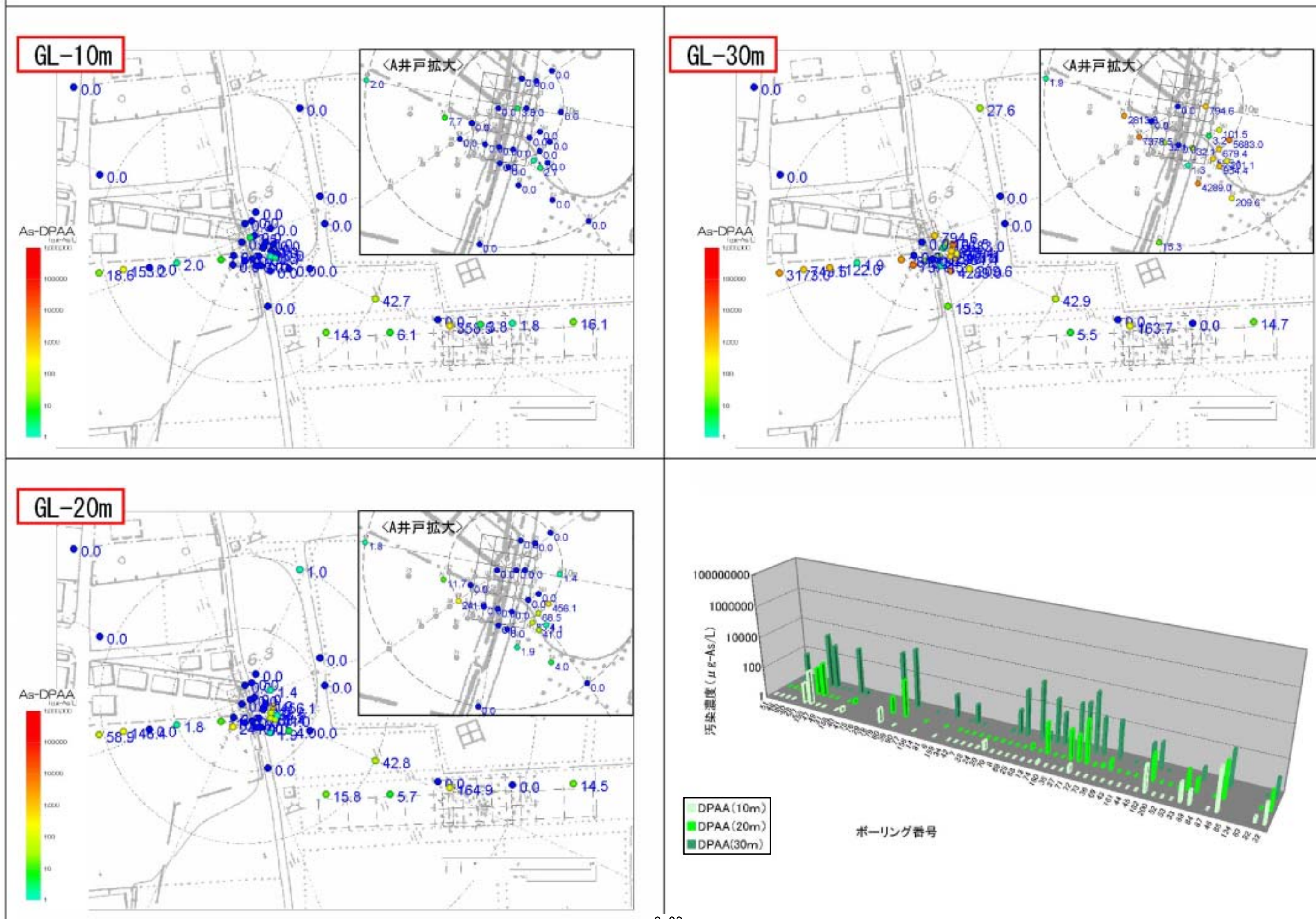


図3.4.15 2005年夏季(7~8月)B地区地下水DPAA汚染状況図

単位: $\mu\text{g-As/L}$

